

# 日本大学芸術学部



## 校友会報

平成27年5月発行  
2015年春季号

94

# C O N T E N T S

平成27年度総会のご案内	2	台湾江古田会総会	11
第9回日藝賞決定	3	日藝の卒博開催	12
皆さん今日は!	5	震災・原発事故にめげず 元気発進のアート展	13
秋田江古田会総会	9	江古田会各支部連絡表	13
新潟江古田会総会	9	学部ニュース	14
岡山江古田会設立総会	10	学部ニュース	14~19
長野江古田会総会	10	編集後記	19
岩手江古田会総会	11		

## INFORMATION

平成27年度

# 総会のご案内

- 議題
- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 1. 会務報告 | 2. 会計報告 | 3. 予算審議 |
| 4. 推薦校友 | 5. 規約改正 | 6. その他  |

久しぶりに  
行ってみよう♪

総会終了後、ただちに懇親会に移ります♪

懐かしい友だちに  
会えるかも…

懇親会  
楽しそう!

2015

6.20 [土] 午後 5:00

special ticket

会費  
喜寿を越えられた卒業生……ご招待  
それ以外の卒業生……3,000円

※ご出席のはがきを是非お出しください。

# 第9回日藝賞決定

毎年活躍した校友二名を表彰し賞金とトロフィーを授与する「日藝賞」の第9回受賞者が決定し、4月4日の入学歓迎式において授賞式が行われました。



荒井 良二氏



中園 ミホ氏



## 第9回「日藝賞」受賞者について



荒井 良二【絵本作家】

(1)卒業年等

昭和55年3月31日 美術学科卒業  
※現デザイン学科

(2)生年月日

昭和31年8月16日（58歳）

(3)代表作品

「あさになったので まどをあけますよ」  
「えほんのこども」「たいようオルガン」  
「ルフランルフラン」「スキマの国のボルタ」

(4)受賞歴

玄光社主催 第4回チョイス 入選  
イラストレーター賞年鑑イラストレーション 新人賞  
「ユックリとジョジョニ」 キーツ賞  
アストリッドリンドグレーン記念文学賞 2005年  
「うそつきのつき」（内田麟太郎・文/文芸堂）  
小学館児童出版文化賞  
「なぞなぞのたび」（石津ちひろ・文/フレーベル館）  
ポーロニャ国際児童図書展特別賞  
「森の絵本」（長田弘・文/講談社）講談社出版文化賞絵本賞  
「ルフランルフラン」（ブチグラパブリッシング）日本絵本賞  
「スキマの国のボルタ」（NHK教育テレビ）  
文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞  
「たいようオルガン」（偕成社）第一回JBBY賞  
「あさになったので まどをあけますよ」（偕成社）  
産経児童出版文学賞大賞

卒業後、小説の装画、挿絵、広告、舞台美術、アニメーションなど幅広く活躍中。  
2012年10月から放映のNHK朝の連続テレビ小説「純と愛」のオープニングイラスト、タイトルを担当。



中園 ミホ【脚本家】

(1)卒業年等

昭和57年3月25日 放送学科卒業

(2)生年月日

昭和34年7月16日（55歳）

(3)代表作品

「Dr. 倫太郎」「花子とアン」  
「ドクターX～外科医・大門未知子～」  
「やまとなでしこ」「anego」「ハケンの品格」

(4)受賞歴

「放送文化基金賞」「放送ウーマン賞」  
「橋田賞作品賞」「第31回向田邦子賞」

東京生まれ。日本大学芸術学部卒業後、広告代理店勤務、コピーライター、占い師の職業を経て、88年にテレビドラマ『ニュートウン仮分署』で脚本家としてデビュー。その後『Age.35 恋しくて』『不機嫌な果実』『やまとなでしこ』『anego』『ナサケの女～国税局査察官～』『下流の宴』など、テレビドラマを中心に数多くの作品を執筆する。07年に『ハケンの品格』が放送文化基金賞と橋田賞を、13年には『はつ恋』『Doctor-X 外科医・大門未知子』で向田邦子賞と橋田賞を受賞。14年はNHK連続テレビ小説『花子とアン』を執筆、朝ドラ過去10年間で最高視聴率を記録するなど話題となる。徹底した取材を通じてのリアルな人物描写には定評があり、特に女性の本音に迫るセリフは多くの視聴者から共感を得ている。また、『東京タワー』『ゴースト～もう一度抱きしめたい～』等の映画脚本も担当。日本大学芸術学部客員教授。

# 皆さん今日は!

本年より皆様の仲間入りをします。どうぞよろしく。

## ●青木 忠英(写真学科卒)

実家が写真館というだけで、大学に日芸の写真学科を選んだ。4年経った今その選択は結果として大正解だったと思う。実家が写真館だったからと言って別に知識があったわけでもない経験もなかった。そんな自分に写真の本質的なことを日芸は教えてくれた。技術面や機材の使い方がすべてではないということ。「写真を見る」ための背景知識や歴史「写真の中身」の重要性。ほかにも欲すれば与えられるという恵まれた環境が整えられている場所であった。そんな私が卒業制作で出会えたテーマが「百年写真館」というものだった。全国の100年以上続く写真館をインタビューしてまわる企画だ。実家の写真館を私が継ぐと今後100年経つということ自分と照らし合わせての企画であった。この企画を達成するにあたり、沢山の方にご迷惑をおかけし、ご協力いただいた。まだまだ反省点は沢山ある作品だが4年間での成長を実感できるものであった。うれしいことに写真関係の職に就くこともできた。4年間で得た経験を活かし更なる成長をめざし今後も写真を続けていきたいと思っています。



## ●内野 桜子(写真学科卒)

私は入学する前から決めていた事があります。「時間を無駄にせず、皆から刺激を受け、色々な挑戦をする」という事です。



写真展に選んでいただいたりホームページのインタビューに答えたり、沢山の経験をさせていただきました。大地の芸術祭で彫刻、日舞、洋舞の方々の活動記録写真を撮影し、撮る楽しみや喜びを感じました。様々な刺激を受ける毎日でした。それは他学科との交流の場が多数設けられている日芸ならではのと思います。ヨーロッパ研修で多くの芸術作品に触れた事やプロの舞台写真家の方に出会った事が私を大きく変えてくれた気がします。大学生活は本当に楽しかったです。素晴らしい先生方、面白い仲間もいて、沢山の思い出を作る事が出来ました。この四年間で経験した事、学んだ事は必ず生かされると信じています!そして今、フォトレッチャーになるという夢もできました。これからは楽しみで仕方ないです!

## ●石川 真理(映画学科卒)

私は映画が好きで、地元の映画祭をもっと盛り上げていきたいという単純な思いで入った映画学科ですが、今となってはここで学んだことは映画のことばかりではありませんでした。大学は畑みたいな場所である、というのがこの四年間で辿り着いた答えです。自分で種を蒔かなければ何も実らず、ただ、だらだらと時間を過ごせば畑には雑草が茂り、気づいたときには手遅れになってしまう。あたりまえのことですが、そんな事を今は考えています。大学が畑ならば、優しく見守り、時に育て方を教えてく



ださる先生方は、案山子のような存在でしょうか。とにかく行動してみることだと思いました。蒔いた種は良くも悪くも、私たちにとっての成果物です。その実が良ければ更に良い実を、出来が悪ければそれを糧として次にどう繋げられるか、そうやって成長することの出来る時期がこの四年間だと思います。

私はこの大学で映像を学んできたつもりですが、映像と向き合った時間よりも自分自身と向き合っていた時間の方が長かったと思います。被写体にカメラを向けている時も、もしかしたら自分自身を映していたのかもしれない。正直な話、私は制作には向いていません。でも映画とどう向き合って、何をしたいのかが見えてきたのは、この大学だったからだと思います。日芸で育てた実を、次にどう活かせるかは自分次第です。今は自分にそう言い聞かせています。

## ●堀内 全(映画学科卒)

入学して1年目は大変だった。入学式は震災の影響でつま先まで冷えてくる大ホールで行われた。学科のオリエンテーションキャンプは中止になり、ワカサギ釣りがしたくて入ったサークルも震災の影響で行けなかった。高い志を持って入学したはずなのに、1年経つころには毎日が失敗ばかりで、必死で、辞めてしまおうかなどと考えるようになっていた。翌年、そんな考えがひっくり返った。本格的に始まった映画学科の監督、撮影録音、演技コース合同で映像制





作する実習が楽しくてしょうがなかった。チームみんなで考えて撮影にのぞみ、怒られて、補い合っ、慰め合っ、褒められた。無我夢中で撮影して、意見を言い合っ、打ち上げで思い出して笑い合っ。「おまえあの時必死だったな」とか「あの撮影は辛かった」とか。そしていつの間にか映画撮影に自然と興味を持つようになっていた。

そうして技術の向上ばかりに目がいって、撮影を楽しまなくなっ、日々が辛くなっ、後悔して次の撮影ではまた楽しく制作をした。そんなことを繰り返していくうちに大学生活が終わろうとしている。撮影技術だけではなく様々なことを学んだ大学生活。この4年間の経験を大切に、映像制作とかかわりながら、社会人として歩んでいこうと思います。

### ●石井 萌々子(美術学科卒)

みなさん、こんにちは。この限られた文字数の中で何を言おうかとても悩むところですが、あまり小難しいことやお決まりの常套句は書くつもりはないので、思ったことを素直に書いてみようと思います。わたしはもともと描くことが好きでたのしく平和に絵を描いていましたが、大学進学にあたり予備校へ通い始めたところびっくりするほど下手だということが発覚したので、それからは無我夢中でかじりつくように絵を描き、そんな怒涛の流れの中で日芸に入学しました。すると周りの皆の絵がまた魅力的なものばかりで、最初は自分の実力の未熟さに心が暗くなりましたが、もう、これは描いて描いて自分を高めるしかないと思い至り、周りの皆に追い



つきたい、そしてだいすきな絵で負けたくないという強い思いで4年間を走り抜けました。今思うと、大学生活をここまでパワフルに過ごせたのはその思いがあったからだと思います。そのために友だちや先生方や授業や本や、周りの刺激をどんどん吸収してわたしの大学生活は毎日が新鮮な驚きや発見でいっぱいでした。そしてわたしはその分成長したはずだと自負しています。豊かで、感動に満ちた4年間でした。

### ●田中 美咲(美術学科卒)

私は小さい頃から絵を描く事が好きで、それを疑わずに過ごしてきました。大学三年から版画コースに入り、様々な技法を知ることができました。はじめて学ぶ技法は正直、うまくいかない事ばかりでした。版画は版が介在することによって、絵画よりも自分の絵を客観的に見る機会が多いように感じます。描いた絵を版に置き変える間接的な作業が行えるので、苦しいこともありましたが自分の絵を知る事ができました。卒業制作では、今まで迷っていたのが嘘のように自分の好きなモチーフで自分らしい作品が描けました。版画に向い、思い悩んだ時間は無駄ではなかったのだと今は感じています。環境が変わって、そこに順応していく事も大切な事ですが、自分と向い合い客観的に見る事、最後には自分を忘れない事が大切なのだと、四年間を通して感じました。



### ●星 淳美(音楽学科卒)

私は教職と音楽療法を並行して学んできましたが、教職では課題や模擬授業の準備に追われ何度も論文を書き直し、音楽療法では練習、実習、記録の提出と、とにかくやること考えることが盛り沢山の本当に忙しい日々でした。しかし振り返ってみると、この4年間でとても充実した宝物のような日々であったと思えてなりません。何事にも自信が持てず、苦手だと思っ、踏み出せないことが私の課題でした。上手くできないこと、人と違うことを引け目に感じていた私にとって、人と違うことが認められるこの日芸での「出会い」はそれまでの私を変える、大きな刺激となりました。何事にも自信が持てない私でしたが、皆に助けられながら1つずつ課題を乗り越えていくたびに、少しずつ前を向くことができるようになりました。私は4月から教職の道を歩むこととなります。自分が教員に向いているとは思わないし、教員になるための努力が十分であるという確信もありません。しかし、この4年間を全力でやりきったことは今私の大きな自信となっています。支えてくださった全ての皆様から感謝を申し上げます。



### ●山田 聡美(音楽学科卒)

私が日芸に入学したいと決意したのは高校1年生の時でした。当時の私はほんやりと音楽に関わりたいう思いから音楽学科情報音楽コースへの入学を決めま



した。しかし音楽学科の先生方からは理論や楽器の演奏、作曲方法など音楽の基礎から応用までを、情報音楽コースの先生方からはプログラミングや電子音楽の歴史など多くのことをご指導して頂きました。また他学科を含む級友たちとも多くのことを共に学び、オープンキャンパスや学内発表会の運営を経験し、困難なことを乗り越えてきました。自分が志したいものが曖昧だった私にとって、それはとても貴重な時間と空間でした。その多くの経験があっただけか、就職活動の際には自分の目標とする姿や信念が見えはじめ、無事に内定も卒業も決まりました。日芸での4年間は今までの学生生活の中でも一番の思い出です。温かいふるさとなりました。春からはアーティストのマネジメントに携わる仕事に就くことになりました。日芸での沢山の行事運営がきっかけです。これから入学する後輩たちにも負けず、今後もおお一層精進していきたいです。

### ●高橋 拓也(文芸学科卒)

編入のため2年から日芸に通い、結果的に卒業まで戸惑い続け、がむしゃらに動いていたように振り返ります。新旧メディアにおける特徴を研究し、読ませる文章とは何なのか実践。その結果を学校外の個人制作でアウトプット、という活動を続けてきました。何故そんなことをしてきたのか思い出してみようとするのですが、これといった理由が見つからない。強いていえば漠然とした不安があったこと、なんとなく大学に通う「だらしない」にフラストレーションを感じたことがきっかけになったのかもしれない。



ません。東京にはライブハウスが膨大にあり、ロックバンドが好きな私は毎日のように公演へ足を運びました。いつしかこの状況を書き残していきたくてという欲求が生まれ、この時大学で学んでいたこととやりたいことが明確に一致したように感じました。在学中に仕事として成立し、卒業後も某所で専属として続けていきます。しかしあくまでもスタートライン。今後自身がどのようなメディア、音楽の変遷を体験していくのか、不安も並々でない分、また楽しみも日々増え続けていくように予感しています。

### ●茂上 光(文芸学科卒)

日芸での活動から生まれた出会いが、私を成長させてくれました。入学前、文芸学科はひとりで静かに文章を書くというイメージがありましたが、実際ゼミの活動はかなりアクティブなものでした。ゼミ雑誌の制作のため、高松へ瀬戸内国際芸術祭の取材に行き、現地の方にお話を伺ったり、江古田の街の活性化をテーマに飲食店のコラボ商品を販売したり。文字通り走り回ってばかりでしたが、その分一冊の雑誌が完成した時の感動はとて大きく、みんなで喜びを分かち合いました。ひとつの物事を成し遂げるためにはたくさんの人の協力を必要とし、その人たちとコミュニケーションを取ることがなにより大切なのだと学んだ瞬間でした。また、私は野球部に所属し、マネージャーとして練習に参加しました。先輩や後輩から様々な影響を受け、楽しい思い出もたくさん出来まし



た。日芸で過ごした四年間、尊敬できる先生や、かけがえのない友達にも出会うことが出来ました。日芸でのすべての出会いに感謝しています。みんな、ありがとう。これからは、日芸出身と胸を張って社会に飛び込んで行きたいと思えます。

### ●大久保 歩美(演劇学科卒)

「大学で演劇が学べる！」ただそれだけが嬉しくてオープンキャンパスへ行ったのがこの大学との出会いです。その時に行われていた、舞台総合実習の稽古場見学が決め手となって、この大学を受験しました。舞台を観ることが好きで、それだけで入学したので、最初のうちは何が何だかわかりませんでした。授業についていくことに必至でしたが、演劇の勉強ができることが楽しくて幸せな毎日でした。高校生の私が憧れていた舞台総合実習では、各コースが力を合わせ1つの作品を作り、その大変さや素晴らしさを学び、これから演劇と関わっていくのに必要なことをたくさん教えられました。舞台は、劇場にいる人全員が同じ空気を共有できる、奇跡のようなのだと思います。1人では舞台は作れないし、1人欠けただけでも成り立たなくなってしまう、1人1人の大切さや、協力して何かを成し遂げることの難しさ、全てをこの大学で学びました。この先もずっと演劇に関わっていきたいです。4年間ご指導頂き、本当にありがとうございました。



### ●水内 温美(演劇学科卒)

「大学での4年間はあつと言う間」だと誰しもが一度は言われているのではないのでしょうか。本当にその通りであると今実感しています。もっと学びたかったことやりたかったことがたくさんあります。



4年前の私と今の私、全然違う人間だと思えるくらい自分の成長を感じます。先生、先輩、友だち、家族、アルバイト先の上司、同期。さまざまな人たちから刺激をもらい悩み、考え、いろいろな答えを導き出し一步一步何も出来なかった子供から少しは頼れる大人になれたのではないかと思います。日芸を選択して良かったと心から思えます。この大学でなければ経験できなかったことこの大学でなければ出会えなかった人、たくさんいると思います。もし4年前に戻れるとしても私は日芸を選んでいたいと思います。自分の選択は間違っていなかった！そう思うことが何よりの幸せです。

4月からまた新しい生活が始まります。何年か経って振り返ったときに今と同じよう自分の選択は間違っていなかったと言えるように生きていきたいと思います。充実した4年間をありがとう！

### ●神田 あやめ(放送学科卒)

『絶対入ります！』オープンキャンパスで見学したテレビスタジオに興奮して、勢いのままにアンケート用紙に大きくこう書いたことを今でも覚えている。漢字の



間違いにも気付かずご丁寧に赤ペンで下線まで引いていた。「あっ、漢字間違えてる！けどまあいいか！」そんな私は、知識など皆無だったのがテレビ制作技術への憧れとやる気だけで日芸に入学した。丁寧に指導してくださる先生方や技術員さん、切磋琢磨できる友人、整った設備。私にとって大学生活は最高の環境だった。基本的な知識や技術は教えてもらえるが、それをどう扱うかは自分次第。自分のやりたいように表現できる日芸の授業はとても楽しかった。「型にハマっちゃうと面白くないんだよね」先生の言葉が印象的だ。こうして私は、どんどん新しいことを知り、どんどん初めての体験をした。漠然と「面白いから好き」だったテレビを、学問として様々な視点から学べたことで、やっぱり「面白いから好き」だと思えた。この気持ちはずっと忘れずにいたい。テレビへの愛情を一回り大きくしてくれた日芸での4年間、ありがとう。

### ●鈴木 ひとみ(放送学科卒)

日芸は“好き”という気持ちを学べる学校でした。



中学生の頃、テレビに携わる仕事がしたいと漠然と考えていた時日芸の存在を知りました。付属高校に入り、日芸の放送学科の音響技術専攻を選択しました。

初めは、まだ実際に制作した事もなかったのがこれが好き！という気持ちよりも興味があるだけでした。しかし、実習や自主制作をしていくなかで、悩んだり試行錯誤していく内に、ふと「好きってこういうことなんだなあ」と気づきました。それからは進んで挑戦し、苦悩することでその

好きを育てていきました。

友達と語り合えて、自分が一步踏み出せばチャレンジ出来る機会がそこから中にあるのは日芸だからこそだと思います。

そして、教授や講師の方とお話しする事で、その“好き”を仕事にする覚悟が出来ました。

来年度から放送の技術を仕事として学んでいきます。日芸で4年間学び、育ててきた“好き”を更に大きくしていきながら一生学んでいきます。

### ●嶋田 元菜妃(デザイン学科卒)

私は芸術の世界が好きです。人の考えや痕跡が五感を使って響いてきます。ときに共感して胸を震わせて、またその場で起きた現象に衝撃を受けます。反対に違和感を覚えて自分は違うのだと主張することもあります。人の感情を揺さぶる世界です。正解はなく、表現する場としては自由です。その自由さを整えるのが、おそらくデザインの



役目で、モチーフがよりわかるもの、良いものになるように与えられた情報を組み立てようと試みます。モチーフは物理的な物質に限らず、人と人之间に流れる関係性など目に見えないイメージもあります。一の手段を試みると一の欠点に気づきます。二の手段では多の発見があります。この連鎖が経験として培われるのでしょうか。自分がどの位の地点に居るかはわかりません。しかし少なくともゼロではないはず。

毎年、春は駆け足になります。今居る地点から早く次に進みたいと身体が勝手に動くようです。元に居た場所には極力戻らないようにします。4年が経ち、日藝もそう思う対象にな



りました。前進するために無くてはならない場所であり時間でした。ここでの出会いに感謝しています。

### ●田中 篤郎(デザイン学科卒)

デザインの世界は終わりも答えも無い長く厳しい茨の道。しかしそんな世界で生き、挑戦していくことはこの上なく楽しい。



日芸での4年間で知ったデザインに対する私の気持ちだ。子供の頃から車や電車のデザイナーに憧れた私は、ここ日芸の門をくぐった。しかし待ち構えていた世界は幾度となく壁が立ちはだかり、私は何度も悔し涙を流した。しかし辛く苦しい道が続いても、きっと来る真の明日に向かい諦めず努力を続ければ必ずや良いものが生まれ、それが一つの提案として身を結んだ時の達成感と喜びは何ものにも変えがたい。そしてまた、

デザインは一人では生み出せない。日芸で出会った沢山の仲間や先生の支えがなければ今の自分は無かっただろう。4月からは夢だったカーデザインの世界に入りまた茨の道を進む。しかしどんな時も私とデザインとを繋いでくれた日芸への感謝の気持ちは忘れない。

## 秋田江古田会総会

10月4日(土) 於：イヤタカ

秋田江古田会は、平成26年度総会を10月4日(土)午後6時から秋田市で開催しました。

田宮支部長の挨拶、来賓の校友会副会長の豊島紘武様と芸術学部次長(所沢校舎)の木村政司様の紹介に続いて議案を審議しました。

平成25年度の活動報告、決算報告に続き、平成26年度の事業については、会の発展向上などに努める交流会などを随時開き具体的な事案を検討することや会員の行なう各事業への協力、又、年1回の会報の発行の継続を承認されました。

今回の総会では、長年支部長を務めていた田宮忠支部長から、今年度

いっぱいでの辞任を示唆されており、役員改正において放送学科卒業の藤澤朗の支部長就任が決まりました。

総会後の懇親会では日本大学の校歌斉唱に始まり、ご来賓の挨拶のあと和気あいあいと学生時代のことそして、新支部長と事務局長が偶然日

芸祭を見学に行っており、当時の学生と比べて新校舎でのにぎやかな様子などの話しに花が咲きました。

秋田江古田会  
支部長 藤澤 朗



## 新潟江古田会総会

10月11日(土) 於：ANA クラウンプラザホテル新潟

平成26年度新潟江古田会総会は、10月11日、野田学部長、綾部校友会会長をお招きして新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。

参加者は10名、昨年よりは2名増え、久しぶりの方や初めての方の参

加があったりで楽しいひとときを過ごす事が出来ました。

この時期は新潟マラソンが開催され校友の方々も参加されているとの事、来年は時期を考えて開催しようと思っています。

新潟江古田会は30数年前「江古田

村の集い」という会が写真学科卒業生を中心として存在していました。その後芸術学部校友会となり現在に至っています。

歴史は古いのですが最近では構成メンバーの高齢化や、自由な校風で育った方々の奔放な気風もあり、参

加メンバーの減少に悩んでいます。  
それでも参加したい時に参加して頂ければと思って連絡だけは今後も取り続けて行きたいと思っています。

来年も10名以上の参加を目標に呼びかけをするつもりです。

新潟江古田会  
会長 増井 伸一



## 岡山江古田会設立総会

10月18日(土) 於：メルパルクオカヤマ

平成26年10月18日(土) 18時30分から岡山市内のメルパルクオカヤマで日本大学藝術学部校友会・岡山江古田会発足総会を開きました。ご来賓で日本大学藝術学部学部長 野田慶人様と日本大学藝術学部校友会会長綾部東洋子様にご出席をいただき和やかな中にも少し緊張した時を過ごしました。折々に野田慶人学部長と綾部東洋子校友会会長の祝辞をいただき、特に日本大学藝術学部校友会岡山江古田会の会旗をいただいた時には正式に19番目に認められた団体になったことを緊張感とともに喜びを出席者23名全員で分かち合いました。

懇親会の後半では校歌の合唱や記念写真の撮影を行い会を終えました。

この日を迎えるまでは任意で不定期に懇親会を開いてきました。

一昨年から芸術学部で学んだことを思い出しながら作品展を開催しています。今年は第3回目を開くために準備をしています。少しずつ要領をつかみながらスムーズに進行でき

るようになってきました。岡山江古田会が正式に認可されたのを機会に少しずつ他県の江古田会と開かれた交流も可能になったのではないかと期待もしています。

新しく皆様の仲間に加えていただきましたことを感謝します。

支部長 景山 日出一



## 長野江古田会総会

10月25日(土) 於：松本ホテル

新たな一歩を目指して

平成26年10月25日、綾部東洋子校友会長をお迎えし、長野江古田会の総会を開催しました。

今回は、中中信地区の会員の皆様にも広くご参加頂きたいとの想いから松本市で開催を計画。会員の皆様のご協力も賜りながら、何とか開催にこぎつけることができました。

議題の中心は、役員改選と会員の皆様にいかにして積極的にご参加い

ただくかということ。様々なご意見やアドバイスを頂戴し、充実した会議となりました。

長野県は南北に長いこともあり、会議開催場所の選定に関しては以前から大きな課題でした。近年、長野市での開催がメインとなっておりますが、場所を変え、松本市で開催できたことは、会にとって大きな前進となりました。次期は、上田市などでの開催を検討しておりますので、東信

地区の皆様、ぜひご参加ください!

長野江古田会は、「若手」メンバーも多いのですが、現役で忙しく働いていることもあり、企画を実行していくための時間確保が難しいところが、大きな課題の一つです。なんとか、会員同士のコミュニケーションの場を定期的に設け、開催していきたいイベント等々の実現に向けて、邁進していかなければいけないと考えております。

また、お待たせしています会報の第二弾・第三弾も計画中です。

平成27年には、北陸新幹線の金沢延伸、善光寺御開帳など注目の話題も多い長野県。近隣の江古田会とのコミュニケーションも図ることができたら、なお良いと考えております。

まだまだ課題も多い中ではありますが、事務局としましては会員のコミュニケーションの場をより多く設けていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局長 松沢 彩

## 第10回岩手江古田会総会

11月8日(土) 於：ホテルメトロポリタン盛岡

晩秋の11月8日(土)紅葉も美しい快晴の元、今年が10周年の節目となる岩手江古田会の総会と懇親会がホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGのレストラン“モン・フレイブ”にて開催されました。

ご来賓として芸術学部から野田慶人学部長 綾部東洋子校友会会長が、宮城江古田会からは桑折洋一新会長と酒井健樹新事務局長、日大校友会岩手支部から元持勝利支部長にもご出席頂き、皆様からご挨拶を頂戴いたしました。

総会では、岩手江古田会國分一彦会長より今年度の活動報告と会計

報告及び来年度の活動計画と予算が提出されて承認となりました。

記念撮影の後、懇親会ではホテルの狩野美紀雄料理長より、今回の10周年を記念して、地元の食材をふんだんに使用した特別メニューについてのお話を伺って乾杯となりました。

今年は秋の叙勲で國分会長の瑞宝単光賞の受賞や衆議院議員高橋比奈子さんの環境大臣政務官就任など10周年にふさわしい素晴らしい話題も豊富な一年でした。

出席の皆さんからの近況報告や日芸賞の話題などもはさみ充実した時

間がなごやかに流れる中、次なる15周年、20周年に想いを走せ、来年の再会を誓い合い、江古田会の益々の発展と皆様のご健康を祈念して、今年もめでたく会は終了しました。

事務局 上田 輝仁



## 台湾江古田会総会

3月28日(土) 於：典華会館

日本大学芸術学部台湾江古田校友会26年度総会が3月28日(土)、台北の典華会館において開催されました。最初に台湾江古田会林会長の挨拶、野田学部長と原直久副会長の紹介、挨拶に続いて、会長選挙を行い、写真学科平成7年卒の黄 国鈞氏を次期会長に選出しました。選挙の後、会員が一人ずつ近況報告をし、特に林舜龍氏は世界各地に出展し、その様子や最近の創作活動についての報告を聞きながら楽しい一日を過ごしました。翌日は新幹線で台

南に移動し昨日総会に出席できなかった南の卒業生諸君と、海鮮レストラン福楼で昼食を取りながら楽しいひと時を過ごしました。今回参加した会員は台北24名と台南14名となりました。





# 日藝の卒博開催

日本大学芸術学部では、昨年、8つの学科の卒業成果物をご覧頂く機会として、「日藝の卒展」を開催しました。今年は装いも新たに「日藝の卒博」と称して、写真・映画・美術・音楽・文芸・演劇・放送・デザインと、様々な卒業成果物を博覧会として総合的に楽しんでいただき、日藝のキャッチフレーズ「8つのアート1つのハート」を感じてもらおうという企画です。

○開催期間 平成27年3月14日から22日まで

○開催場所 日本大学芸術学部江古田校舎





## 一 ふくしま江古田会 一

大震災と原発事故から4年、未だに風評被害で“フクシマ”から“福島”へ戻れない。

そんな中、ふくしま江古田会は全国からの激励に感謝し、応えるべく「第1回アート展」を開催。芸術を通して“ふるさと再生”への存在を示した。

1月14日から4日間、会員8名が持ち寄った油彩、水彩の絵画や写真など30点を展示。また、入学案内コーナーを設け芸術学部をアピールした。特に日芸賞の紹介には立ち止まる人が多く、各界で活躍する受賞者に頷いていた。

会期中は市内、県内はもとより近県から350名を超える来場者で賑

わった。土曜日の午後、品川萬里郡山市長がひょっこり顔を見せ熱心に一点一点鑑賞され、居合わせた出品者の説明に耳を傾けていた。

ふくしま江古田会  
島崎 恒夫



## 江古田会各支部連絡表

各江古田会支部に  
ご在住の校友の皆さん

各支部では年1回の総会を開き親睦を高めて色々な活動をしております。参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	名 前	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送 52 年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇 32 年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽 54 年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	鈴木 玲子	演劇 42 年度卒	019-646-6745
宮城江古田会	桑折 洋一	放送 55 年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術 52 年度卒	023-631-8040
福島江古田会	島崎 恒夫	映画 31 年度卒	024-935-5410
新潟江古田会	増井 伸一	写真 48 年度卒	025-233-3910
長野江古田会	宇田川 信行	映画 38 年度卒	026-251-8144
石川江古田会	干場 文夫	音楽 50 年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸 53 年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真 44 年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	音成 日佐男	放送 45 年度卒	0952-29-3398
熊本江古田会	奥村 隆志	写真 43 年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真 52 年度卒	090-1080-8082

海外江古田会として 台湾江古田会・韓国江古田会・中国江古田会があります。

## 学部ニュース

去る3月25日に平成26年度卒業式が  
挙行されました。日本大学学長賞・  
優等賞・優秀賞、芸術学部長賞、芸術  
学部奨励賞など卒業生、大学院修了  
生に対する各賞の発表及び表彰があ  
りました。

### ●日本大学学長賞(学業部門)

○文芸学科 高橋拓也

### ●日本大学優等賞(学業部門)

○写真学科 依田律子 小林雄一

工藤ゆい 石野美樹

○映画学科 堀内 藍 木崎加奈子

袴田くるみ 坂倉球水

○美術学科 小柳佑太 小川有紀

矢作香菜子 柳野奈津子

○音楽学科 須賀百香 星 淳美

室井笑利奈 平野伸芽

○文芸学科 宮川祥子 吉川里歩

石川舞花

○演劇学科 長尾舞夢 竹田有里

板垣明日香 新田佑梨

○放送学科 松本佑香 奥山すみ玲

戸上翔太郎 寺門響子

○デザイン学科 森 樹里 湯口果歩

清水詩織 TJONG EKA DEVI

### ●芸術学部長賞(学業部門)

○写真学科 重松 駿 陳 程

竹永 理 荒木玲子

長野柗太郎

○映画学科 中西基樹 杉浦穂奈実

廣中愛子 原田宏美

THILAKARATHNA GODAPITIYA  
LIYANAGE IRUDINI UMALI

○美術学科 三田村万葉 小川有紀

松本佳巳 石井萌々子

根本祐杜

○音楽学科 佐藤里香 愛宕結衣

平田亞樹 室井笑利奈

品川裕太

○文芸学科 村山知美 田中里咲

永沼絵莉子 西 智子

石川舞花

○演劇学科 竹田有里 間所珠世

村岡ちひろ 奥山このみ

原田侑季

○放送学科 フィオレンティーニ  
チェレステ 葵 松本匡史

荒谷雄一郎 宮崎香奈子

三浦菜穂美

○デザイン学科 関野美奈実 勝野玲於

田中篤郎 渡邊日香莉

室山智樹

### ●芸術学部長賞(その他の部門)

○映画学科 石川真理

○放送学科 中野達也

### ●芸術学部奨励賞

○写真学科 彦根藍矢

○映画学科 岩崎友明

○美術学科 小柳佑太

○音楽学科 上田真平

○文芸学科 矢代羽衣子

○演劇学科 峰岸優衣

○放送学科 井上祐加里

○デザイン学科 高松 優

## 学科ニュース

### 写真ブロック



●平成26年度芸術祭展示作品の中  
から写真学科奨励賞が重松駿(4年)  
「SHAPE OF NATURE」、遠藤志帆  
(3年)「流」、小堀弘(3年)「活きる」に  
授与されました。また写真学科卒業  
生の会・新写真派協会から新写真派  
協会賞が小堀弘に授与されダブル  
受賞となりました。

●「-写真学科創立75周年記念-卒

業生によるオリジナルプリント展」  
を芸術資料館(10月28日~12月5日)  
および写真ギャラリー(11月1日~12  
月5日)で行いました。1949年から  
1985年卒業の25名の卒業生の作品を  
展示しました。

●11月26日、日本大学客員教授の大  
石芳野先生により「夜と霧はいま」に  
ついての特別講義が行われました。  
その後、芸術資料館で展示されたご  
自身の作品を聴講者と共に鑑賞され  
ました。大学院生を中心に多数の学  
部生も加わり、作品の前でも貴重な  
お話を伺いました。

●12月5日に江古田校舎で齋藤陽道  
氏により「写真制作の現場」のテーマ  
で写真を見せていただきながら筆談  
による特別講義が行われました。

●卒業制作の中から金丸重嶺賞が  
青木忠英「百年写真館」、杉山慧「の  
ぞみ世代」、須崎将佳「山田線-汽車  
のない日々-」に決まりました。  
その他の賞については「学部ニュー  
ス」のページをご覧ください。

●「2015 卒展」が2月16日~2月28日  
に日本大学芸術学部江古田校舎芸  
術資料館で行われました。展示作品

の中から池田莉子「夢のあと」、御座岡宏土「DEVELOPMENT」、渡邊裕貴「Jamais vu」に写真学科奨励賞が、また杉山慧「のぞみ世代」に新写真派協会賞が授与されました。また本年度は、同写真展が3月7日～3月9日まで「日本大学芸術学部写真学科2015卒展」としてニコンサロンbis新宿で開催されました。

●練馬区役所健康福祉事業本部の依頼で、昨年に引き続き「女性の健康週間」写真展を行いました。今年は、「こころがまあるくなるじかん」というテーマでした。3年生の天草晴菜、木下しほり、黒石あみ、小財美香子、平野七楠の女子5名が写真を制作しま

した。その作品が2月28日～3月13日に練馬区役所本庁舎で展示され、ホームページでも紹介されました。

●「日本大学芸術学部写真学科卒業制作選抜展」が3月5日～3月11日にポर्टレートギャラリー(四谷)で行われました。この展覧会は今年で4回目となります。卒業制作の実物を校外で唯一展示するものです。展示希望者を公募し、審査をへて選抜き開催となりました。出品者は池田莉子「夢のあと」、青木忠英「百年写真館」、陳程「Horizon」、渡邊裕貴「Jamais vu」、重松駿「日本写紀」、御座岡宏土「DEVELOPMENT」、須崎将佳「山田線-汽車のない日々」、杉山慧

「のぞみ世代」、竹永理「shift E」の9名です。

●新年度より、鳥海早喜氏(平成18年度卒)を専任講師としてお迎えしました。写真基礎演習Ⅱ、写真基礎演習Ⅲ(他学科用)を担当頂きます。また、服部一人氏(昭和58年度卒、「写真基礎演習Ⅲ」担当)を講師として、宮嶋茂樹氏(昭和58年度卒、年2回の特別講義担当)を客員教授としてお迎えしました。

●写真学科で長く教鞭を執られた佐藤正治先生が2月7日にご逝去されました。

## 映画ブロック



●平成26年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第42回渡辺俊平記念賞

(脚本)藤原真悠

☆第17回筈見有弘賞

(理評)松村陽香

☆第8回大竹徹賞

(脚本)木崎加奈子

☆第9回八木信忠賞

(録音)武藤あすか

☆第39回映画学科奨励賞

(理評)久我純花、(映像)袴田くるみ、

(脚本)加藤法子、(監督)黒田早紀、

(撮影)植村美紀、(録音)中村美来、

(演技)佐藤ケイ

☆第24回映画学科選奨

(理評)渡部瑞貴、(映像)長崎千穂、

(脚本)角岡伸哉、(監督)櫻井翔太、

(撮影)堀内全、(録音)高橋勇人、

(演技)酒井朝子

☆第22回映画学科特別賞(放映産業提供)

(理評)庄司句、(映像)高坂聖太郎、

(脚本)上村瞳、(監督)宮本舞、

(撮影)武井俊幸、(録音)篠原みずき、

(演技)山田菜亜紗

☆第12回東芝ライテック・アートライティング賞

(撮影)西澤広夢

☆第14回映画学科コダック賞

(監督)渡邊未来、山口悠、

(撮影)近藤和峰、糟谷麻奈、

(録音)柴野琳々子、神永美沙紀、

(演技)角健士、坂倉球水

●平成26年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。

稲村武志講師(アニメーションⅠ)、

岩本憲児講師(映画と諸芸術)、

谷口正晃講師(昭和63年度映画学科

卒業、映像表現・理論Ⅰ)、

富永昌敬講師(平成10年度映画学科卒業、映画演出Ⅲ)、

成田裕介講師(映画演出Ⅲ)、

仁井田千絵講師(映画理論基礎)、

野村康治講師(映像心理学)、

藤石修講師(映画技術Ⅰ)

●平成26年度をもちまして、次の先生が退職となりました。芸術学部にご尽力いただきありがとうございます。

小笠原隆夫講師、上田学講師、

寒竹ゆり講師、高山英丈講師、月岡貞

夫講師、南部英夫講師。(小笠原隆夫

講師、月岡貞夫講師、南部英夫講師

は、引き続き大学院映像専攻の映画分野の講座を担当します)。

また、平成26年度をもちまして、大学院映像専攻の映画分野の講座を担当していただいた次の先生方が退職となります。池田宏講師、宮崎晃講師、吉田剛講師。

## 美術ブロック



■無形文化遺産に登録された「細川紙」(埼玉県小川町東秩父村)。高山紗希氏(H25年度卒)は、東秩父和紙の里の工房で紙漉き技術者として勤務しています。



紙漉きをする高山紗希氏

■第20回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞において「新聞」遠藤美香氏(H18年度卒)が大賞を受賞されました。



遠藤美香《新聞》2013年(平成25) 木版  
第20回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞 受賞作品

■第39回全国大学版画展において「遙かな記憶からⅢ」関貴子さん(院1年)、「沈黙の棲家」木村祥乃さん(学部3年)が町田市立国際版画美術館収蔵賞を受賞されました。

■第66回十日町雪まつりににおいて「海神と災厄の使者」彫刻コース有志が十日町市市議会議長賞を受賞されました。



彫刻コース有志「海神と災厄の使者」

■今回で7回目を迎える練馬区立美術館と日本大学芸術学部共同企画において「N+N展2015 The彫刻-Nichigei 彫刻の現在」彫刻コース教員を中心に彫刻作品約40点を展示する。  
期間6月11日～30日  
会場 練馬区立美術館

■練馬区立 美術の森が4月4日にリニューアルオープンしました。練馬区立美術館に隣接する緑地公園。その名も「練馬区立 美術の新緑地」。天然芝を敷きつめた公園内に潜むのは

20種類32体のファンタジーな彫刻群。その監修・制作を手掛けたのは、高橋幸次教授、鞍掛純一教授、桑原淳司教授、内山翔二郎助手です。鞍掛教授は、クマ、ゾウ、ペンギンなど15作品、桑原淳司教授は、動物感覚をときすます道、内山翔二郎助手はトンボを制作しています。



■第40回土日会展:絵画作品公募  
会 期:2015年12月9日～12月21日  
会 場:国立新美術館1階展示室1A  
搬 入:11月24日(火) 10:00～  
問合せ:土日会事務局0422-48-1007  
事務局 三浦裕之

## 音楽ブロック



●平成26年度 卒業論文要旨発表会

平成27年3月19日(木)江古田校舎・E-301教室に於いて、卒業論文が優秀であった学生による卒業論文要旨発表会が開催されました。発表者は次の通りでした。

<音楽教育コース>

品川裕太、宍戸千夏、田仲留衣、石井緑、朝日菜緒  
<情報音楽コース>  
上田真平、菊地啓太、山田聡美、杉山陽介



## ●平成26年度 卒業演奏会

平成27年3月19日(木)練馬文化センター小ホールに於いて、卒業演奏及び卒業作品で優秀であった学生の出演する卒業演奏会が開催されました。出演者は次の通りでした。

### <声楽コース>

愛宕結衣(ソプラノ)、伊藤椋平(バリトン)、齋藤翔(バス)、橋本美優(ソプラノ)、浅海千尋(メゾソプラノ)

### <ピアノコース>

平田亜樹、浦本雅、菊竹南、大澤実季、武市梢、畑野紗希

### <弦管打楽コース>

室井笑利奈(バス・トロンボーン)、須賀百香(トランペット)、室橋歩美(パーカッション)、藤井玲美(トロンボーン)、松尾絢華(クラリネット)、池ノ谷大志(トランペット)、小平理乃(フルート)

## ●日本ピアノ調律師協会主催

第16回新人演奏会 東京文化会館  
平成27年4月29日(水) 17:00開演

ピアノ独奏 平田亜樹

## ●第85回 読売新聞主催新人演奏会

東京文化会館・大ホール

平成27年5月5日・6日

ピアノ独奏 平田亜樹

バス・トロンボーン独奏 室井笑利奈

ピアノ伴奏 浦本雅

ソプラノ独唱 愛宕結衣

ピアノ伴奏 菊竹南

作品発表 佐藤里香

ピアノ独奏 大澤実季

## ●ヤマハホール・コンサートシリーズ

「音楽大学フェスティバル・コンサートシリーズvol.6」

平成27年6月20日(土)

ピアノ独奏 柴田崇孝

## ●ヤマハ管楽器 新人演奏会

平成27年6月8日(月)

第33回クラリネット部門

ヤマハホール

クラリネット独奏 松尾絢華

平成27年6月10日(水)

## 第31回金管楽器部門

ヤマハホール

トランペット独奏 須賀百香

## ●ムラマツ・フルートデビューリサイタル

日時未定 東京オペラシティ・リサイタルホール

フルート独奏 小平理乃

(小リサイタルの形で演奏します。)

## ●平成27年度 音楽学科夏期受験準備講習会

平成27年7月26日(日)～29日(水)に開催いたします。校友会員の皆様のお知り合いを、ぜひご紹介ください。

## ●平成26年度で退職なさった先生は次の通りです。

長い間、ありがとうございました。

柏木敢雄先生・望月和子先生・内山教子先生

## ●今年度より次の先生が新たに講座を担当しております。

齋藤厚子先生・田村由貴絵先生

## 文芸ブロック



### ■中村文昭先生がご定年・感謝する会を開催

1987年より文芸学科で教壇に立たれていた中村文昭教授が、70歳のお誕生日の2014年12月18日にご定年を迎

えられました。非常勤講師として引き続き文芸学科で教鞭をとられますが、近代詩と言葉・カラダの関係を探求し続ける中村先生の授業に惹き込まれた学生は数多く、「中村先生に感謝する会」が2015年1月27日、江古田校舎文芸ラウンジにて開かれ、数多くの卒業生が集まり長年のご指導に感謝の意を表しました。

### ■「日藝の卒博」文芸学科コーナーに

### も多数の来場者

2015年3月14日～22日に8学科合同卒業制作博覧会「日藝の卒博」が開催されました。文芸学科では、江古田校舎文芸資料室内にて、平成26年度に提出された卒業制作・論文を手にとってじっくり読めるスタイルの展示を行い、連日、熱心な閲覧者の姿が見られました。次年度も開催される予定ですので、卒業生の皆様のご来場をお待ちしております。

## 演劇ブロック



### 前期実習発表のご案内

平成27年度前期の3年次生実習発表及び卒業制作中間発表を、以下の日程で行います。ぜひご高覧いただき、

ご指導・ご鞭撻いただければ幸いです。

●総合実習ⅡA「まっぶたつの子爵」  
6月25日(木)～27日(土)於:中ホール

●総合実習ⅡB

「Dance Performance ～バレエによる創作表現～」

7月3日(金)・4日(土)於:中ホール

●総合実習ⅣA「演目未定」

7月23日(金)～25日(土)於:小ホール

●総合実習ⅣB

「Dance Performance ～モダンによる創作表現～」

7月31日(金)・8月1日(土)於:小ホール

●卒業制作(日舞)中間発表

7月11日(土)於:中ホール

●卒業制作(演劇)前期発表

7月(日程未定)於:小ホール  
尚、チケットの予約、開演時間等の詳細は、演劇学科ホームページをご参照ください。

## 放送ブロック



### ■第31回NHK全国大学放送コンテスト優勝

放送学科4年でオーディオ無線研究会所属の西山遥翔さんが第31回NHK全国大学放送コンテストのアナウンス部門で優勝しました。コンテストは大学等の公認団体所属の学生を参加資格とし、アナウンス部門

には171人がエントリーした中での優勝でした。

### ■心のホッチキス・ストーリーに入選

文具会社マックスが募集した「第5回心のホッチキス・ストーリー」で平井久美子さん(平成21年度卒)がマックス賞を受賞しました。応募総数5776件の中からの受賞でした。平井さんはこの他にもアルミプロフィールメーカー SUS(株)が募集した「あなたの『IDOME』」でも応募総数593件の中から最優秀賞に選ばれています。

### ■放送学科新任者のお知らせ

今年度より放送学科の専任教員として星野裕先生をお迎えしました。星野先生は、放送学科を昭和59年度に卒業後、第一企画(株)を経て平成元年より(株)電通にてCMプランナー・コピーライター・クリエイティブディレクターとしてご活躍されました。「CM専攻」を中心に授業を担当します。

## デザインブロック



### ○日本大学人権啓発ポスターコンクールにて秦泉寺沙紀さんが最優秀賞を受賞

人権侵害のない快適な環境を守るため、学校法人日本大学が学生・生徒を対象に人権啓発ポスターを募集し、秦泉寺沙紀さん(2年生/2014年度)が最優秀賞を受賞しました。また、古川絵里奈さん(2年生/2014年度)が優秀賞、大多和未枝さん(3年生/2014年度)が特別賞を受賞しました。

### ○第12回建築展ポスターコンペにて西野夢実さんが最優秀賞を受賞

埼玉建築士主催「建築展」ポスター

コンペにて、西野夢実さん(3年生/2014年度)が最優秀賞を受賞しました。このコンペは毎年、日藝デザイン学科、東洋大学の大学指定コンペとして実施しており、今回は西野さんが最優秀賞を受賞しました。

### ○第27回ACC学生CMコンクールにて松山愛さんが銀賞を受賞

一般社団法人全日本シーエム放送連盟(ACC)は、CMの質的向上と人材の育成を目的に1988年より毎年、全国の学生を対象にACC学年CM学生コンクールを実施しています。27回目を迎えた今回は全国から1622本(内、テレビCMは1070本)の応募があり、デザイン学科の松山さん(3年生/2014年度)が見事、銀賞を受賞しました。

### ○日本タイポグラフィ年鑑2015学

生部門にて出水友美子さんが入選  
日本タイポグラフィ協会が主催する日本タイポグラフィ年鑑2015の審査が行われ、学生部門にて出水友美子さん(3年生/2014年度)が入選をいたしました。2015年4月にパイ・インターナショナルから日本タイポグラフィ年鑑が発行され、作品が掲載されます。

### ○銀座ウィンドウディスプレイの制作に学生がデザイナーとして参加

和光アネックス(東京都中央区銀座)1階のショーウィンドウにデザイン学科の内田奈月さん、吉田咲雪さん、菅原英恵さん(ともに3年生/2014年度)がデザインしたパレンティンデーのディスプレイ「恋する瞳」が1月22日から2月14日まで公開されました。チョコレートで出来た指輪やアイメイク

で装う「恋する女性」が表現され、銀座の街に華やかさを演出しました。

### ○行田市ポスターフェスティバルにデザイン学科生が参加

行田市と行田市商店会連合会、ならびにNPO法人白壁からポスター制作の依頼を受けたデザイン学科の2年生約70名が、ビジュアルランゲージの授業の課題として行田市のイメージポスターと行田市商店会の各店舗ポスターを制作。2月1日(日)に開催された標記のイベントで70点あまりの作品が行田市商工センターホールに展示されました。そしてインターネットと現地で人気投票が行われ、上位者に賞状と記念品が贈られました。

### ○2014年度卒業制作選抜展と第4回

### 卒業生・学生交流会を開催

恒例となっているデザイン学科卒業制作選抜展が2015年3月14日(土)から3月22日(日)まで、西棟デザイン学科アトリエほかで開催されました。昨年度まではデザイン学科が独自に“卒制展”として開催していましたが、今年度からは『日藝の卒博』として芸術学部合同で盛大に開催されました。このオープニングに合わせ、こちらも恒例となっているデザイン学科(旧美術学科デザインコースを含む)の卒業生と学生の交流会が3月14日(土)に行われ、多くの学生がプロとして活躍している卒業生の話に熱心に耳を傾けていました。

### ○『戦後日本の日本の名作ポスター展』のご案内

1990年代の中頃に、当時最高のデジ

タル技術で複製された1950年以降の日本を代表する名作ポスター 100点の展覧会が下記の日程で開催されます。100点のうち80年代以前の作品は西棟3階の芸術資料館にて、80年代以降はギャラリー棟のA&Dギャラリーにての展示となりますが、年代による作風の違い等が垣間見られて興味深い展示になる予定です。多くの校友会会員の皆様をはじめ、一般の方にも観覧して頂けるように準備しておりますので、どうぞお気軽にお立ち寄り、昭和を中心としたグラフィックデザインの黄金期を堪能して頂けましたら幸いです。

記

日程:6月9日(火)~7月3日(金)  
会場:江古田校舎西棟3階芸術資料館  
会場:江古田校舎ギャラリー棟  
A&Dギャラリー



#### 総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

(株)スピーチ・バルーン▶1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。絵本、コミック、アニメほか、企画本の制作、出版プロデュースを主とし、各種イベントの企画・構成・プロデュースなども行っている。

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

<http://www.my1973.com>

design:スタジオ・マイ

## 編 集 後 記

2014年度より8学科合同の卒業制作博覧会が「日芸の卒博」と名称を一新して開催されています。全学科それぞれの展示場所にあるスタンプを集めると、日芸グッズがもらえるスタンプラリーもあり、1500名を超えるご来場者に恵まれました。

(青木)

## 8つのアート1つのハート



## 日本大学藝術学部

日本大学芸術学部校友会報・第94号

2015年春季号●平成27年5月発行●

- 編集人 会報編集委員会
- 発行人 綾部東洋子
- 広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子  
川上 央 青木敬士 原 一平  
茅原良平 長瀬浩明

- 発行所 日本大学芸術学部の校友会  
東京都練馬区旭丘 2-42-1  
日本大学芸術学部の内  
電話 (03) 3554-5363  
事務担当 北嶋 留美子

- 印刷所 江戸クリエート株式会社  
東京都文京区本郷 3-43-16  
成田ビル  
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙

平成26年度写真学科卒業制作  
渡邊裕貴  
「Jamais vu」

8つのアート1つのハート

# 日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

## ◆ 大学院 芸術学 研究科 ◆

- ◇ 博士前期課程 / 文学専攻 / 映像芸術専攻 / 造形芸術専攻 / 音楽芸術専攻 / 舞台芸術専攻
- ◇ 博士後期課程 / 芸術専攻



8つのアート1つのハート

**N U**  
Nihon University College of Art  
**Art**

日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘2-42-1 TEL.03-5995-8282 ■ 所沢校舎 所沢市中富南4-21 TEL.04-2993-2212